

この日に成就した

美津子

教会ができて、日毎に、壁が整えられ、カーペットが張られ、「ああ、できてきたなあ」と思いますが、でもまだブラインドはないし、椅子も机もないし、いろいろない物ばかり。「ああ、何もないなあ」と思っていたら、ここで賛美をしている時にふっと、思いというか「声」がしました。

わたしを愛する者たちが
その賛美が この教会を完成させるんだよ

ああ、そうだったんだ、本当に何もなければ、こうして主を愛する人たちがたくさん集まって下さった時に、「ああ、この教会は生きている」、そんな思いがしました。そして今、ピーター先生が「この感動」とおっしゃっていましたが、私もここで「この胸がときめくような想いをありがとうございます」と祈っていました。すると、また「声」がしました。

これはわたしのときめきなんだよ

かつて、私が主を想う思いがあまりに激しくて、「まるでこれは恋ですね」と言った時、「これはわたしの恋なんだよ」と聞こえたことがありました。今回のこれが第二弾でうれしくなりました。主が本当によろこんで下さっている、そんな思いがしました。

今朝、目が覚めた時から一つの言葉が迫っていました。

「この日に成就した、この日に成就した」という言葉です。「この日」、1993年11月14日、教会のオープニングの日に、何が成就したんだろう。いろんなことを思っていたのですが、どうしても開きたい聖書の箇所があります。ルカによる福音書4章18節からです。

今からもう6年前ですが、私がまだ何も知らない時に聖霊に打たれるという体験をして、そしてイエスさまに出会い、それから一年余りしてピーター先生がいろんな伝道の場にいらっしゃる時に共に行かせていただいたことがありました。その何ヶ月後かに、今度は私一人が集会に出るようになりました。その最初の集会がある東京の教会での礼拝後のいやしの集会でした。

そこで百人余りの方がおられ、いやしを祈っている時でした。初めての経験でしたが、「ここに来ておられる誰かに言葉がきている、思いがきている」という思いがわいてくるのです。でもそれが何か分からない。言っていないものかどうか、迷いに迷った挙げ句に、思い切って尋ねてみました。

「ここにおられる方で、何か言葉が、思いが迫っている方はおられませんか？」

するとちょうど、目の前に「膝が立たなかったのにいやされてもう痛くもない」とよろこんで笑い出しているおばさんがおられて、その方が言われました。

「『囚われ人に解放を、囚われ人に解放を』という思いがきています」

さらに私の横にいて共に祈って下さっていたアメリカ人が、「"Liberty to the captives" という同じ箇所が一時間も前から迫っていました」と話してくれました。私はそれを聞いてうれしくてそのまま帰りました。

その頃はまだ聖書の言っていることもよく分からない時でした。その夜も集会がありましたから、私には聖書をゆっくり読む時間がありませんでした。そこで、「今この私に必要なところがあるなら聖書をパッと開きますから、そこで現わして下さい」と主に祈りました。すると、開く前に下に聖書が落ちてしまい、その開いたところがルカ4章18節でした。

そこでいったん閉じてもう一度自分で開いてみたら同じところでした。まずここを読ませていただきま

す。

主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださいからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告知らせるのである。（ルカ 4:18-19）

イエスさまがイザヤ書を開いて読まれたところでした。そのあとの20節から読みます。

イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。

（ルカ 4:20-21）

私に今朝から来ていた「この日に成就した、この日に成就した」という言葉はここなんだ、そんな思いがしました。そのことがこれから明らかにされていく、そんな思いでした。

そしてついですが、この18節が開かれた翌日に、ある東京の方が葉書きを下さいました。

「あなたのしておられる働きのために祈りました。そしてみことばが与えられました」と言って、この18節、19節をこのまま書き写しておられました。

「わあっ！ 私が聖書を開いたところと同じじゃないの！」とびっくりしました。

そして家へ帰るなり、本が届いていました。ある方が「本を差し上げたい、いやしについて書かれている本だからお読み下さい」と送って下さって、そこに、はさんであったみことばが、またこれ。そして、何度も何度も同じところがその週のうちに届きました。

「ああ、ここは本当に神さまが願って与えて下さったんだ」と思いました。

そして「子羊の群れ」が始まったか、まだ「子羊の群れ」というはっきりとしたカタチになってない時でした。当時まだ主人がアメリカにいましたから、アメリカに行き、そこからカナダへ行って集会をする時に、その家のご主人が「どうしても朝から迫ってくる聖句があるので、集会の前に読ませて下さい」と言って読まれたのが、イザヤのほうでしたが、やはりここでした。

それ以来、何かことあるごとに与えられて、今朝再び与えられました。

主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ、主の恵みの年とわれわれの神の報復の日とを告げさせ、また、すべての悲しむ者を慰め、シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与えさせるためである。こうして、彼らは義のかしの木となえられ、主がその栄光をあらわすために植えられた者となえられる。（イザヤ 61:1-3）

そして、「この日に成就した」。

今日は、「この聖句は、あなたが耳にしたこの日に成就した」というところが迫ります。ほんとうは始まったばかりですが、主は成就を見て下さっているのだと思います。成就したことを主がこれから現わしていつて下さるのでしょう。

この日に成就した。

1993年11月14日 芦屋教会オープニング礼拝

（「白いハト8」より）